

明治二十三年三月十五日

動物解剖手引草

にて内層もあるが如し、再考を要す。

ハイドランスの甚だ小形なり。中に就き大なるもの其高さ一、五ミメに達す、小なるもの即ち生殖機を擔へるもの其高さ〇、五ミメを踰へず。小刺の長さ〇、五乃至〇、七ミメなり。

クラゲ形生殖機の大抵一箇のハイドランスに二箇宛あり體の基部に在るもの大方大なり、充分成育したるクラゲは比較上大形にして其直徑〇、二ミメを踰ゆ。

此種は甚だ珍奇のものなり、恐くは新種なるべし。通例ポドコリチ屬は遊離のクラゲを生じ、ハイドロアクチニア屬は附着せる種囊を生ず、然るに此種は其中間にして生殖機はクラゲ形にして而も附着せる儘なり。故に上述二屬の中何れに屬すべきや疑ふべきが如くなれども生殖機(第七圖)が判然たる四箇の放射管を有すると此機を負へるハイドランス(即ち Blastostyle)がテンタクルを備ふるにより其ポドコリチ屬たるとは明なり。

アルマン氏の説にワグネル氏の *Hydra aculeata* は儘にポ

第貳卷

一〇〇

ドコリチ屬の者なり、此種にてはクラゲが充分の發育を遂げず、四箇の放射管、四箇の短き鐘口テンタクルを備ふるなれども遂に遊離するとなしと。此に由て觀るにポドコリチ屬中にてクラゲ發育の度に種々の階級あるを知るなり。P. aculeata の記述を讀むに可なり善く余の標品と符合せり、或は同種なるやも測るべからず。R. Wagner 氏は一千八百三十三年に此をアドリアチック海岸に得たるなれども其後數多の年月を経れども一人も之を再見したるものなしと云ふ。

(つゞく)

●動物解剖手引草(六十一頁)

(ノツバキ)

岩川友太郎

第十二項 肝臓ニ進入スル部分ト之ヲ辭スル部分トニ於テ下行大靜脈ヲ結縛シ此脈管ニ附着セル部分ヲノミ遺留シテ肝臓ノ全部ヲ除去シ以テ左ノ件ヲ査察スベシ
(九五) 横隔膜ノ中央ハ透明ニシテ光澤アル腱質ヨリ成リ筋纖維ハ是ヨリ體壁ニ向テ射出シ背側ニ至リ輻輳シテ二條

ノ厚強ナル筋束即チ横隔膜柱(Pillars of the diaphragm)ト

成リ後方ニ移行シテ終ニ其起始部タル前位ノ腰椎ニ達ス

(九六)大動脈ハ横隔膜柱ノ間ヲ通過シテ腹腔ヨリ前進ス

(九七)食道ハ腱質部ノ稍背側ニ於テ横隔膜ヲ貫通ス

(九八)下行大靜脈ハ腱質部ノ腹側ニ方リ少シク右方ニ開在セル一孔ヨリ食道ニ向テ前進ス

(九九)三條ノ肝靜脈(第一圖)ハ肝臟ヨリ下行大靜脈ニ血液ヲ輸送スル脉管ニシテ其二條ハ横隔膜ノ直後ニ於テ大靜脈ニ入り第三條ハ大靜脈ノ將ニ肝臟ニ入ラントスル所ニ於テ之ヲ移行ス

余ノ是ニ第一圖ト記セルハ本誌第二卷第十六號ニ掲ケタル圖ヲ指示セルナリ蓋シ其圖ニハ番號ヲ認メサレトモ是レ活版者ノ誤テ脱漏セルナレハ逐章揭示スル所ノ附號ハ右ニ對照スベキ者ト知ルベシ看者幸ニ之ヲ諒セヨ

第十三項 胸腔ノ内部ヲ明視センカ爲メニ左右若クハ一方ノ肋骨ヲ充分ニ切除シ以テ左ニ記載セル肋膜ノ關

係ヲ檢スベシ

(一〇〇)肋膜ノ外層ハ胸腔ノ左右ニ在テ胸腔ノ内面ニ密着セルノ後其内縁ハ胸腔ノ中央線ニ沿フテ二重ノ縦隔膜ヲ成ス(四二ヲ參照セヨ)右ノ縦隔膜ニ由テ構成セラレタル空隙即チ縱隔膜腔(Mediastinal space)ハ心臟ニ由テ占居セラル、カ故ニ其大部ハ實際充實シテ空間ヲ存セストイヘトモ心臟ト胸骨トノ間ニハ尙ホ其一小部ヲ遺留セリ之ヲ縱隔膜前腔(Anterior m.s.)ト名ツク而シテ各肋膜ハ氣管枝ノ入口ニ於テ反轉シ同側ノ肺臟ヲ密ニ包裹シ以テ肋膜ノ内層ヲ成ス

第十四項 胸骨ノ末端ヲ切斷シ又縦隔膜ヲ其裏面ヨリ分離シテ之ヲ前方ニ反轉シ次ニ心囊ニ縱截ヲ施シテ左ニ記セル心囊ノ關係ヲ檢スベシ

(一〇一)心囊モ亦肋膜ノ如ク内外ノ二層ヨリ成ル者ニシテ外層ハ心臟ヲ緩繞シ是ヨリ發出スル大脈管ノ起始ニ至レハ此外層ハ内轉シテ更ニ心臟ヲ密包ス是レ即チ内層一名内心囊ナリ以上内外兩層ノ間ニ存スル空隙ニハ無色透明

ノ心囊液 (Pericardial fluid) ナル者少許ヲ含ム

第十五項 心囊、胸線及心臟ノ基底ニ存スル脂肪ノ如キ總テ脈管ノ觀察ニ不便ナル者ヲ悉ク除去シ又脈管ヲ圍繞セル筋肉、結組織、脂肪等ヲ除去シテ頭部及前肢ニ進行セル脈管ヲ搜索スベシ次ニ大動脈及下行大靜脈ヲ下肢ニ向テ同様ニ搜索スベシ此際輸尿管輸精管若シクハ子宮ヲ損傷セサル様注意ヲ加フルヲ要ス

(一〇二) 左心室 (Left ventricle) (29) ハ心臟ノ頂端ヲ成シテ其色ハ他ノ部分ヨリ淡白ナリ又其觸感ハ稍硬強ナリ

(一〇三) 右心室 (Right ventricle) ハ一條ノ斜溝ニ由テ左心室ト分界セラレ左心室ニ比スレバ其色稍黒クシテ觸感柔軟ナリ

(一〇四) 左右ノ心耳 (Auricle) (26-36) ハ心室ノ上部ニ在リテ其色ハ稍黒ク側壁ハ薄ク心室ノ基底ニ少シク重複セリ

(一〇五) 冠動脈 (Coronary artery) ト冠靜脈 (Coronary vein) ハ心室ノ外面ニ分布ス

(一〇六) 氣管ハ心臟ノ基底ト水平ナル部分ニ於テ岐レテ二

條ノ氣管枝 (Bronchus) ト成リ各肺臟ニ移行ス

(一〇七) 肺動脈 (Pulmonary a.) (31) ハ右心室ノ前方ニ存スル圓錐狀突起ヨリ左前方ニ向テ發出シ早晚二枝ニ岐レテ肺臟ニ入ル

(一〇八) 肺靜脈 (Pulmonary v.) (34) ハ肺臟ヨリ血液ヲ左心耳ニ輸達スル脈管ニシテ其所在ハ後ニ明視スルヲ得ベシ

(一〇九) 上行大靜脈 (Precaval v.) (28-38) ハ胸腔ノ前部ヨリ心臟ノ基底ニ移行スル脈管ニシテ左右二條アリ其名ハ同側ノ上肢ヨリ來タル所ノ鎖骨下靜脈 (Subclavian v.) (41) ト頭部ヨリ進來セル外頸靜脈 (External jugular v.) (15) トノ結合ヨリ成ル者ニシテ上行右大靜脈ハ心臟ニ達スルヤ直ニ右心耳ニ移行シ上行左大靜脈ハ心臟ヲ提舉シテ始メテ明視スベシシテ心臟ノ基底ノ背側ヲ迂回シ終ニ右心耳ニ移行ス左右ノ外頸靜脈ハ頸ノ背部ニ存スル一條ノ橫行脈管ニ由テ或ハ互ニ結合セラル、トアリ

(一一〇) 外頸靜脈ハ下顎骨ノ内側ヲ移行セル顏面前靜脈 (Anterior facial v.) (7) ト外耳ヨリ進來セル顏面後靜脈

動物學雜誌第七號

(Posterior f. v.) (33) トヨリ合成セル脈管ニシテ鎖骨下靜脈ト結合ノ邊ニテ内頸靜脈 (Internal j. v.) (23) ヲ受取ス是レ氣管ニ並行シテ腦髓ヨリ血液ヲ受容スル脈管ナリ

(一) 下行大靜脈 (I) ノ胸部ハ横隔膜ヨリ右心耳ニ向テ前進ス

(一) 横隔前靜脈 (Anterior phrenic v.) ハ下行大靜脈ニ沿フテ横隔膜ヨリ前進シ以テ其血液ヲ右側ノ五行大靜脈ニ注入ス

(一) 三有對ノ横隔神經 (Phrenic nerve) ハ胸腔ノ前部ヨリ後方ニ移行シテ横隔膜ニ分布シ其右神經ハ右側ノ上行大靜脈ニ沿フテ右心耳ヲ横切り尙ホ下行大靜脈ニ沿フテ走行シ又左神經ハ左側ノ上行大靜脈ニ沿走セル後左肺ノ内側ニ移行ス横隔神經チ前方ニ踪索スレハ其起始ハ第六ノ頸神經ニアルヲ視ルベシ

(一) 四迷走神經 (Vagus n.) ノ左胸部ニ就テ右神經ハ氣管ニ沿走シテ其右側ヨリ胸腔ニ入り食道ニ移行セルノ後横隔膜ヲ通過シテ胃ニ達ス左神經ハ最初左側ノ上行大靜脈

ニ並行シテ終ニ亦食道ニ達シ其後兩神經ハ共ニ食道ニ沿フテ螺旋狀ノ走行ヲ爲ス

(一) 五大動脈 (Aorta) ハ彈力性ノ厚壁ヲ有スル白色ノ大脈管ニシテ肺動脈ノ後方ニ於テ心臟ノ基底ヨリ發出シ左側ニ彎曲シテ大動脈弓 (Aortic arch) ヲ成セル後左側ノ氣管枝ヲ越ヘ脊柱ノ腹面ニ達シテ背大動脈 (Dorsal aorta) ト成リ脊柱ト並行シテ胸腹兩腔ノ全長ニ跨リ終ニ二分シテ二條ノ腸骨總動脈 (Common iliac a.) (10) ト成リ各々後肢ノ後外方ニ沿走ス大動脈ハ一小韌帶ニ由テ肺動脈ト結合ス是レ胎兒ノ固有ナル Ductus arteriosus ノ遺留物ナリ

(一) 六淋巴管系統ノ主幹タル胸管 (Thoracic duct) ハ大動脈ノ背側ニ並行セル薄壁ノ細管ニシテ左鎖骨下靜脈ト左外頸靜脈トノ結合部ニ於テ其含有液ヲ血液中ニ注入ス

(一) 七交感神經 (Sympathetic nerve) ハ白色ノ細神經ニシテ大動脈ノ兩側ニ並行シ其走行中肋骨頭ニ安置セル神經球ヲ連綴ス而シテ前方ハ頭部ニ至リ後方ハ腹部ニ達セリ

(一) 八孤靜脈 (Azygos v.) (8) ハ心臟ト肺臟ヲ左側ニ轉ス

レハ明視スルヲ得ベクシテ大動脈幹部胸部ノ右側ニ接在シ
後方ノ七對肋骨間ノ間隙ヨリ助間靜脈(Intercostal v.)(20)
ヲ受取シ前進シテ其血液ヲ上行右大靜脈ニ注入ス前方ノ
五對肋骨間ヨリ攢集セル血液ハ同前ノ大靜脈ト結合セル
前助間靜脈(Anterior i. v.)ニ移行ス

(一) 九無名動脈(Imnominate a.)(25)ハ大動脈弓ノ右側ヨリ
起リ直ニ左頸總動脈(Left common carotid a.)(27)ヲ發出
シ暫時前進シテ二分シテ右頸總動脈(Right c. c. a.)(37)
ト右鎖骨下動脈(Right subclavian a.)(40)トヲ成ス

(二) 〇左鎖骨下動脈(Left s. a.)ハ大動脈弓ノ左側ヨリ發
出ス

(二) 各總頸動脈ハ氣管ノ外方ト外頸靜脈ノ内方トニ當
リ頸側ニ沿走シテ喉頭ニ枝ヲ分布シ喉頭ノ前端ニ並行セ
ル部位ニ至レハ分枝シテ内頸動脈(Internal carotid)(19)ト
外頸動脈(External carotid)(12)ト成ル蓋シ甲ハ背側ニ向
ヒ腦ニ達スル者ニシテ總頸動脈ノ外側ヨリ發出スル第一
ノ主枝タリ乙ハ直ニ顎眼等ニ向ヒ數枝ニ分裂シテ頭ノ大

部ニ分布ス

(二) 迷走神經ノ頸部ニ在ル者ハ各總頸動脈ノ外側ニ沿
走ス之ヲ後方ニ踪索スレハ右者ハ右鎖骨下動脈ヲ越ヘ左
者ハ大動脈弓ヲ橫行シテ胸腔ニ進入ス

(二) 三交感系ノ頸部ニ存スル部分ハ頸動脈ヲ提舉シ迷走
神經ヨリ之ヲ分離スレハ明視スルヲ得ベクシテ頸動脈ノ
直後ニ存在セル扁平白色ノ神經ナリ之ヲ後方ニ踪索スレ
ハ第一肋骨部ニ至リ膨大シテ後頸神經球(Posterior cervi-
cal ganglion)ト成リ而シテ後ニ胸腔ニ進入ス

(二) 四之ヲ前方ニ踪索スレハ喉頭ノ直前部ニ至リ亦膨大
シテ前頸神經球(Anterior c. g.)ヲ成ス此直外部ニ迷走神
經ノ同様ナル神經球アリ之ヲ根球(Ganglion of the root)
ト名ク之ヲ殆ント同所ニ於テ右ノ兩神經ト頸動脈トヲ
橫行シ後部ヨリ斜メニ前内方ニ向テ移行セル二腹筋ノ纖
弱ナル腱アリテ其直後ニ之レト並行セル舌下神經(Hypo-
glossal n.)ナル者アリ

(二) 五甲狀腺(Thyroid gland)ハ喉頭ノ左右兩側ニ接着セ

動物學雜誌第七號

ル二葉ヨリ成ル所ノ褐色塊ニシテ右ノ二葉ハ喉頭ノ正面ニ當リ帶狀ノ中央部ニ由テ互ニ結合ス

(二六) 喉頭ノ前部ハ巨大ナル甲狀軟骨 (Thyroid cartilage) ヨリ成リ後部ハ環狀軟骨 (Cricoid cartilage) ヨリ成レリ

(二七) 顎下腺ノ形質ハ既ニ(一一)ノ條下ニ之ヲ記セリ其漏管ノワルトン氏管 (Wharton's duct) ハ頗ル細管ニシテ腺ノ内面ヨリ發出シ口床ニ至リテ是ニ開在ス

(二八) 鎖骨下動脈ハ其發出後直ニ岐レテ脊椎動脈 (Vertebral artery) (46) ト膊動脈 (Brachial a.) (9) ト成ル甲ハ内面ニ進入セルノ後頸椎骨ノ脊椎動脈溝ヲ通過シテ前方ニ進行シ以テ腦脊髓ニ分布ス乙ハ外方ニ直行シテ前肢ト肩帶ニ枝ヲ送り又胸壁ノ内面ト胸骨ノ外面トノ間ニ於テ後方ニ走ル所ノ一條ノ細キ脈管タル内乳動脈 (Internal mammary artery) (6) ヲ分出ス

(二九) 胸動脈 (Thoracic a.) ハ胸部ノ大動脈幹ヨリ左右双出スル小腦管ニシテ後部七對ノ肋骨間ニ分布シ前部五對ノ肋骨間内乳動脈ノ一枝ニ由テ血液ヲ受取ス

動物解剖手引草

(三〇) 横隔動脈ハ大動脈ヨリ發出シテ横隔膜ニ分布ス

(三一) 腎動脈 (Renal a.) (35) ハ右側ニ在テハ腸間前動脈

(六二) ノ直後ヨリ出テ左側ニ於テハ右側ノ者ヲ距ルハ半

「インチ」許ノ後部ヨリ發シ各直ニ同側ノ腎盂ニ進入ス

(三二) 腰動脈及腰靜脈 (Lumber a. & v.) ハ大動脈ト下行

大靜脈ヨリ分出スル細脈管ニシテ腹腔ノ背壁ニ分布ス

(三三) 精動脈及精靜脈 (Spermatic a. & v.) (42) ハ腸間後動

脈 (5) ヨリ稍後方ニ於テ大動脈ト下行大靜脈ヨリ分出

スル脈管ニシテ睪丸若シハ卵巢ニ分布ス

(三四) 薦骨中動脈 (Median sacral a.) (36) ハ大動脈ノ背側

ヨリ起リ骨盤ニ向ヒ後方ニ移行スル脈管ニシテ大動脈ノ

尾部タリ

(三五) 左右ノ腸骨總動脈 (IO) ハ大動脈ヨリ分歧スルヤ否

ヤ腹腔背壁ノ後部ニ向テ腸腰動脈 (Ilio-lumber a.) (24) ヲ發

出シ其後直ニ分レテ腸骨内動脈 (Internal iliac a.) (21) ト腸

骨外動脈 (External iliac a.) (13) ト成ル蓋シ甲ハ骨盤腔ノ背壁

ニ移行シ乙ハ膀胱及子宮ニ一枝ヲ分與セル後ブルーバルト

明治三十二年三月十五日

害蟲雜錄第七

第貳卷

一〇六

氏靱帶(二七)ヲ通過シテ股動脈(Femoral a.)(16)ト成リ以テ脚ニ分布ス該靱帶ノ直外ニ當リ股動脈ハ腹腔ノ腹壁ニ分布スル所ノ上腹後動脈(Posterior epigastric a.)(32)ヲ分出ス

(一三六)腸腰靜脈(24)ハ大動脈分又ノ直前ニ於テ下行大靜脈ニ移行スル所ノ一大靜脈管ナリ但シ時トシテハ左側ノ腸腰靜脈ハ直ニ下行大靜脈ニ移行スルヲ爲サシテ暫時之ト並行シテ上昇シ左側ノ精靜脈ト結合スルノ後左腎靜脈ノ入口ヨリ稍後方ニ於テ下行大靜脈ニ入ルヲアリ

(一三七)下行大靜脈ハ其末端ニ至リ三分シテ外向セル二條ノ腸骨外靜脈(External iliac v.)(14)ト後向セル一條ノ腸骨總靜脈(Common i. v.)(11)ト成ル腸骨外靜脈ハ之ト並行セル同名動脈ノ如ク脚部ヨリ血液ヲ環流スル所ノ股靜脈(Femoral v.)(17)ノ在腹部ニシテ膀胱及子宮ヨリ亦血液ヲ受取スト腹後靜脈(Posterior epigastric v.)ハブーバルト氏靱帶ノ直外ニ於テ股靜脈ニ開通セリ腸骨總靜脈ハ二條ノ腸骨內靜脈(Internal i. v.)(22)ノ結合ヨリ成ル者ニシテ腸

骨內靜脈ハ同名動脈ノ内側ニ沿ヒ之ト並行シテ骨盤ノ背壁ニ分布ス
(以下次號)

●害蟲雜錄第七

池田作次郎

果樹害蟲ノ續キ

余ハ未ダ果樹害蟲(其他ノ者モ亦)ニ付自カラ實驗シタル者誠ニ少シ一二之レアルモ未ダ完カラザレバ二三外國ノ書籍ヨリ採萃シテ述ブルノミ故ニ従前爾來記シ又記セント欲スル者ハ亦本邦果樹ニモ發生スルヤ否余ハ敢テ之ヲ保證セズ唯同好ノ士ニシテ未ダ余ガ採萃スル書籍ヲ一讀ナキ諸彦ノ參考ニ供セントノ赤心ヨリスルノミ實ニ日本ノ害蟲ヲ論セントナラバ必ズ本邦ノ害蟲ヲ實地經驗ノ上セザル可カラズトハ不肖ナガラ余ノ常ニ胞ク所ノ本懷也右餘辭ナガラ見ル人或ハ誤認シテ此雜錄ヲ難スル者無キニシモアラザル可レバ此處ニ斷ヲ爲スコト如件

梨樹ノ害蟲